

令和6年度防災キャンプリーダーズ研修事業の実施結果について

災害協定締結都市である「新潟県新発田市」において、えびな子どもたちが災害時に自らの命を守る力を習得するとともに、両市の交流を深めることを目的に標記事業を実施しました。今後は、研修を通して習得した知識及び技術を学校及び地域へ伝達していきます。

1 実施日時

令和6年7月29日（月）～31日（水） 2泊3日

2 参加児童及び引率職員

市内小学校4年生の5校・10名の児童と引率職員2名

【門沢橋、東柏ヶ谷、社家、杉久保、今泉小学校の5校】

3 研修行程

- 7月29日(月)** 海老名駅→新発田市へ（新幹線等）→新発田市役所→滝谷森林公園→川体験→防災キャンプ→夕食・就寝【宿泊：あかたにの家】
- 7月30日(火)** 起床・朝食→防災キャンプ→内の倉ダム見学→昼食→科学体験→夕食・散策・就寝【宿泊：月岡温泉】
- 7月31日(水)** 起床・朝食→農業体験→閉校式→研修終了→帰路（新幹線等）→16:06 海老名駅到着後解散

4 取材対応

NHK新潟：7月30日（火）放送

新潟日報：8月2日（金）掲載 ※次項別添資料を参照

F Mしばた「新発田くらしびとStation」

8月6日（火）の放送にて事業紹介



5 今後の日程

9月1日（日） 避難所開設運営訓練【各校避難所にて研修結果を児童が伝達】

6 研修記録・掲載記事等

※新聞記事は『新潟日報（8月2日）』



段ボールの仕切りを用いて就寝スペースを整える子どもたち（新潟市上巻谷）

新発田市では毎年、市内の小学校単位で、児童が防災キャンプに取り組んでいる。海老名市の子どもたちは、両市が災害時協定を締結している縁で昨年初めて参加。今年は海老名市内の5校から10人が集まった。

教育旅行は7月29、31日の2泊3日で実施。初日は新発田市の「あかたにの家」に宿泊し、段ボールの仕切りや断熱シートで自分たちが寝泊まりするスペースの設置などに取り組んだ。

夕食では、ポリ袋を使った炊飯にも挑戦。子どもたちはポリ袋の中の水をベントボトルの水を大切に使う

神奈川・海老名 新発田

遠くの仲間と「いざ」学ぶ

あかたにの家 児童が防災キャンプ

防災や観光を盛り込んだ教育旅行「スタディー・ツーリズム」の誘致に取り組む新発田で、市内と神奈川県海老名市の小学生が参加する防災キャンプが開かれた。4年生計20人が、避難所生活を想定した活動を通して、いざという時の対応について学びを深めた。

令和6年度 防災キャンプリーンリーダーズ研修の記録



7/29 出発



7/29 新幹線乗換



7/29 川体験



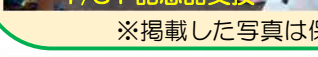
7/29 避難所生活体験



7/30 水消火器訓練



7/31 記念品交換



7/31 収穫体験

※掲載した写真は保護者及び児童本人の了解を得て使用しています。

て研い後、ポリ袋とお配られ、限られた食器を湯を沸かした鍋に投入し、まく活用しながら分け合っておにぎりを作った。ほかに、石川真守さん（9）は「意真帆さん（9）は「少ない見を出して通しやす水でもちゃんと飯が炊スペースを作れた。新けてびっくりした」と話し、支援物資に見えた話も、海老名市の村小4年、発田市東豊小4年の田辺た。